

## 学級活動（２）指導案

5年3組33名 指導者 赤石 裕樹

○ 本実践は、以下の検証を行うものである。

子どもに対する図書館利用に対するアンケートと貸出記録の実態が、子どもの課題意識を高め、問題解決の必要性を考えることにつなげることができたか。

- 1 題材名 「情報基地としての望ましい図書館の利用の仕方」 [共通事項] (2) -オ
- 2 題材について

望ましい図書館の利用の仕方を身に付けることは、目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むことにつながる。また、調べ学習においても、必要な情報をどの場所のどの分類の本から入手する力を身に付けることにもつながる。

そこで本題材では、図書館の利用の仕方について困っていることを想起させたり、自分の読書習慣を振り返ったりする活動を通して、図書館の利用の仕方と、借りる本の傾向に課題があることに気付かせる。また、十進分類法の概略や本の配置についての正しい知識を身に付けさせ、目的に応じて、複数の本や文章などを適切に選ぶこと、調べ学習においても必要な本を選ぶことのできる喜びを感じさせる。このような学習を通して、望ましい読書習慣が形成されていくのではないかと考え、本題材を設定した。

### 3 活動の流れ

	期日	活動内容	教師の手立て	めざす子どもの姿と評価方法
事前	5/17	1 図書館利用の達人とは、どんな人なのかを考える。	○ 図書館利用の達人とは、どんな人なのかを、ワークシートに記入させておく。	<input checked="" type="checkbox"/> 図書館利用の達人とは、どんな人なのかを想起しながら、ワークシートに書いている。 (ワークシート)
本時	5/18	1 これまでの自分の図書館の利用の仕方の課題に気づき、望ましい図書館の利用の仕方について、考える。 2 自分がめざす図書館の利用の仕方について、自己決定する。	○ 子どもの今の姿を客観的に捉えさせ、課題を解決するためには何が必要なかを考えさせることで、望ましい図書館の利用の仕方を身に付けようという子どもの意欲を高める。 ○ 学習した事と実態を比較させ、問題点に気付かせた上で、それをどのように改善していくか、自己決定させる。	<input checked="" type="checkbox"/> 望ましい図書館の利用の仕方について理解している。 (ワークシート, 発言) <input checked="" type="checkbox"/> 図書館の利用の仕方について自分に合った方法を考え、自己決定しようとする。 (観察, ワークシート) <input checked="" type="checkbox"/> 図書館の利用の仕方について自分でやろうと決めたことを粘り強くやり遂げようとする。 (発言, ワークシート)
事後	5/18 ～	1 自己決定した事を実践する。	○ 自己決定したためあてを図書館に掲示し、司書教諭や友達が見届け、称賛できるようにする。	<input checked="" type="checkbox"/> 自己決定したことを実践している。 (行動, 自己決定カード)

### 4 本時の活動

#### (1) 目標

これまでの図書館の利用の仕方について振り返らせるとともに、望ましい利用の仕方を理解させ、図書館を進んで活用しようとするができるようにする。

#### (2) 評価規準

○ 望ましい図書館の利用の仕方を理解し、自分に合った目標を自己決定しようとしている。

【集団の一員としての思考・判断・実践】

#### (3) 指導に当たって

指導に当たっては、はじめに、事前アンケートの図書館を利用するときに困っていることと、昨年度の貸出記録の実態から、図書館の利用の仕方と借りる本の分類の傾向に課題があることに気付かせ、問題意識をもたせる。また、全員が学習に意欲的に取り組むことができるように、図書館利用の達人とは、どんな人なのかを事前にワークシートに記入させておく。

次に、図書館の本と自宅にある本との違いを考えさせることで、本を分類することの必要性に気付かせる。そして、教師による図書館の機能と十進分類法の概略や本の配置についての話を聞くことで、正しい知識を身に付けさせ、ラベル記号を基に本を探す活動をさせることで、本の分類についての理解を深めさせる。その後、図書館利用の達人とは、どんな人なのかを考え、発表させる。

最後に、本時で学んだことと現在の自分の実態を比較させ、今後、取り組みたい図書館の利用の仕方について自己決定させる。こうすることで、子どもが自らの行動を変えようと努力し、図書館を進んで正しく活用する態度を身に付けることができるのではないかと考えた。

(4) 本時の展開

時間	活動内容	予想される子どもの意識	○教師の手立て □めざす子どもの姿
10分	<p>1 どんなときに図書館を利用しているのか想起する。</p> <p><b>振り返る</b></p> <p>2 現在の自分の実態について振り返る。 ・利用するときの困ったことについて</p> <p>3 本時のめあてを確認する。</p> <p><b>図書館利用の達人になろう。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べ学習をするときかな。</li> <li>・本を読むときかな。</li> <li>・昼休みに利用しているよ。</li> <li>・図書の時間に利用しているよ。</li> <li>・どこにどの本があるのか分からない。</li> <li>・どこに直したらよいのか分からない。</li> <li>・読もうと思った本が、あるべき場所がないことがある。</li> </ul>	<p>○ 開校記念遠行で利用したことなど、具体的に例を挙げることで、どんなときに図書館を利用してきたかを思い起こさせる。</p> <p>○ <b>事前アンケートの結果と昨年度の貸出記録の実態を提示することで、図書館の利用の仕方についての課題に気付かせ、本時のめあてにつなげる。</b></p> <p>○ 本時の活動について、進んで取り組めるようにするため、ワークシートに本時のめあてを記入させる。</p>
25分	<p><b>必要性</b></p> <p>4 教師から図書館の利用の仕方と本の分類や配置、本のさがし方についての話聞く。</p> <p>5 図書館利用の達人とは、どんな人なのかについて意見を出し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本の背に貼に書かれた番号にはこんな意味があるのか。</li> <li>・分類ごとに棚に整理されているから、多くの本の中から、読みたい本を見つけることができるのか。</li> <li>・書名や作者が分かれば、パソコン検索で探せるのか。</li> <li>・本の探し方と返し方が分かったぞ。</li> <li>・本を元あった場所に確実に返せる。</li> <li>・自分の力で本を探せる。</li> <li>・いろいろな分類の本をバランスよく読む。</li> <li>・同じシリーズの本を全て読む。</li> <li>・同じ作者の本をたくさん読む。</li> <li>・先生を頼らない。</li> <li>・文字の多い本を読む。</li> <li>・すばやく本を借りたり、返ししたりする。</li> <li>・宮沢賢治の作品を全て読もう。</li> <li>・借りた本を先生に聞かずに直すようにしよう。</li> <li>・読みたい本をすばやく探せるようになるろう。</li> <li>・全然借りていない分類の本があったから、分類を確認しながら借りるようにしよう。</li> </ul>	<p>○ 図書館と家の本との違いから、本を分類することの必要性を子どもに気付かせる。</p> <p>○ 図書館には、「学習・情報センター」「読書センター」の2つの機能があること。十進分類法の概略や本の配置等について説明する。</p> <p>○ 試しに調べ学習をさせることにより本の分類と配置についての理解を深めさせる。</p> <p>○ 図書館利用の達人について、分類以外の観点からも考えさせ、様々な意見を引き出すようにし、考えを広げられるようにする。</p> <p>○ 昨年度の個人の貸出記録をそれぞれ本人に提示することで、個人としての借りる本の傾向の偏りに課題があることに気付かせる。</p> <p>○ 子どもが考えを整理しやすいように、子どもから出た意見を種類ごとに板書するようにする。</p> <p>○ これまでの自分の姿と、本時に学んだことを比較させ、自分がめざす望ましい図書館の利用の仕方をワークシートに書かせる（自己決定）。</p> <p><b>思</b> 本時で学習した事をもとに、自分がめざす望ましい図書館の利用の仕方を自己決定している。</p> <p>〈ワークシート〉</p>
10分	<p><b>解決法</b></p> <p>6 図書館利用の達人になるために、今後取り組んでいくことについて、自己決定し、発表する。</p>		